

平成 31 年 4 月 26 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11693

研究課題名(和文) 東日本大震災で被災した児童生徒に対して養護教諭が行う健康支援活動と課題

研究課題名(英文) Mental and physical effects of the 2011 Great East Japan Earthquake on School Children, and Health Support initiatives by yogo Teachers

研究代表者

佐光 恵子 (Sakou, Keiko)

群馬大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：80331338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：東日本大震災及び原子力災害後の児童生徒の心身の健康状況と養護教諭の行う健康支援活動の実際と課題を明らかにするために、福島第一原発事故の災被災地である福島県相双地区の県立学校に勤務する養護教諭を対象に調査を行なった。結果、多くの養護教諭は「生徒は落ち着いている」状況であると回答したが、健康状態では、体重増加や肥満傾向、体力・スポーツ能力の低下が認められ、将来や進路に不安を持ちスクールカウンセラーの個別支援を受けている生徒がいると回答し、学校医やスクールカウンセラーと連携して健康支援を行っていた。さらに長期的支援の必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東日本大震災及び原子力災害後の児童生徒の健康状況と養護教諭の行う健康支援活動の実際と課題を明らかにするため、本研究期間(4ヵ年)に小学校・中学校・特別支援学校・高等学校の養護教諭を対象に調査を実施し実態と課題を明らかにしてきた。現在の学校生活は落ち着きを取り戻しつつあるものの、児童生徒の発達課題に応じた健康課題が顕在化し地域格差が生じている。学校保健の専門職である養護教諭の役割は大きく災害大国の日本において、今後起こりうる自然災害への対策や保護者を含め児童生徒に対する健康支援活動の参考になるものである。

研究成果の概要(英文)：To clarify the current mental and physical state of students periencing the Great East Japan earthquake, tsunami, and nuclear accident, and to shed light on the practical initiatives and issues faced by yogo teachers in supporting students' health. Yogo teachers responded that the "students are calm." However, yogo teachers recognized a tendency among students towards weight gain and obesity, as well as reduced physical stamina and sporting ability, indicated that some students were anxious about their future and career path, and were receiving personal support from the school counselor. The yogo teachers provided support to students while attempting to ascertain their mental and physical well-being through greater health monitoring and questionnaires, and while coordinating with the school physician and counselor.

研究分野：学校保健

キーワード：東日本大震災 養護教諭 健康支援活動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

東日本大震災直後からの被災地への健康支援ボランティア活動や学校訪問活動、及び研究活動の経緯を踏まえて、震災から4年が経過した現在、東日本大震災福島原発事故の放射能汚染により懸念される福島の児童生徒の心身の健康への影響に対して、養護教諭が行う健康支援の実際と課題を把握する。

### 2. 研究の目的

東日本大震災において福島原発事故で被災した児童生徒の心身の健康状態を把握し、学校保健のキーパーソンである養護教諭が行う児童生徒の心身のケアに関する健康支援活動の実際と今後の課題を明らかにする。なお本研究では、調査による心理的侵襲や負担を考慮し、調査対象を児童生徒とせず、日常的に児童生徒の心身の健康支援に携わる養護教諭を対象とする。

### 3. 研究の方法

東日本大震災被災地の養護教諭を対象とした実態調査を実施するために、養護教諭を対象としたインタビュー調査により児童生徒の健康状態や養護教諭の健康支援活動を実証的に把握することとした。東日本大震災福島原発事故で被災し、全町避難を余儀なくされている福島県双葉郡の小学校、中学校、特別支援学校、高等学校に勤務する養護教諭を対象に独自のインタビューガイドを用いた、半構造化面接を実施した。インタビューの主な内容は、東日本大震災後において心身のケアを必要とした児童・生徒への健康支援の実践事例を通して、養護教諭が心身のケアを必要と判断した児童生徒の実態と介入について。ケアを行った児童・生徒の行動や心理の変化、成果について。児童生徒、教職員、保護者への健康支援で感じた困難感や課題について。

多職種との連携について。等である。分析方法はテープに録音した内容から逐語録を作成し、Berelson, B. の内容分析法を用いた。本調査に当たっては、本研究の対象者が勤務する公立学校を管轄する教育委員会、および学校長の許可の下、研究を実施する。対象者に対し書面および口頭にて研究方法、自由意思による参加であること、プライバシーの保護などについて十分説明を行い、研究協力についての同意書をもって同意を得た。研究代表者が所属する大学倫理委員会の承認後に実施した。(平成25年5月31日承認済み 承認番号25-6)

### 4. 研究成果

震災から8年が経過した現在、児童生徒の学校生活は落ち着きつつあるものの、放射能汚染による将来の健康問題や進路についての不安を抱いており、今後、さらに長期化が予測される。さらに、児童生徒への健康支援には、保護者への支援も含め、学校保健と地域保健の協働・連携による支援体制の構築が不可欠である。これらの調査結果は研究論文にまとめ、関連学会発表や学会誌投稿、さらには、研究テーマの特色を踏まえ、海外からも注目されている東日本大震災、特に福島原発事故に関する国際的な発信を意図した英文論文の電子ジャーナル誌掲載も果たした。

以下、時系列に記述する。

本研究の**第1段階【平成27～28年度】**では、東日本大震災福島原発事故で被災し、全町避難を余儀なくされている福島県双葉郡の福島県立F高校養護教諭、南相馬市立K中学校養護教諭、福島県立S高校養護教諭を対象にインタビュー調査を実施した。インタビューの主な内容は、東日本大震災後において心身のケアを必要とした児童・生徒への健康支援の実践事例を通して、養護教諭が心身のケアを必要と判断した児童生徒の実態と介入について。

ケアを行った児童・生徒の行動や心理の変化、成果について。児童生徒、教職員、保護者への健康支援で感じた困難感や課題について。多職種との連携について等である。

これらの調査結果を質的研究の論文としてまとめ、関連学会発表や学会誌投稿を行った。

次に、第2段階として【平成29～30年度】は、同じく福島県相双地区の全高等学校15校に勤務する高等学校養護教諭を対象とした、児童生徒の震災・原発による健康問題や健康支援の課題についてアンケート調査を実施し、これらの結果を論文にまとめ、関連学会に発表・英文論文の投稿を果たした。被災地の避難状況に地域差が顕著であるため、当初予定していた被災全域を対象としたインタビュー調査・アンケート調査の対象者の把握が困難なため、福島県相双地区の全高等学校15校に勤務する高等学校養護教諭を対象とした調査へと軌道修正した。

さらに、最終年度も引き続き、震災後に統合・新設された高等学校に勤務する養護教諭の協力を得て、新設高校3年間の養護教諭の健康支援についてインタビュー調査を継続して実施した。本研究期間の終了後も、福島県内被災地に新設された中・高等学校一貫校の調査結果を継続的に発表していく予定である。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件 内3件は英文論文)

① 青柳千春、金泉志保美、鹿間久美子、佐光恵子 他

「Subjective experiences of a *yogo* teacher with referense to health to support activities carried out in the first year after the Great East Japan Earthquake : A case study based on a narrative approrch」

(東日本大震災1年後に行なわれた養護教諭の健康支援活動に関連した主観的経験: ナラティブアプローチに基づく事例研究)

日本公衆衛生雑誌, 査読有, 64巻(2), 78-84, 2017

② 金泉志保美、青柳千春、鹿間久美子、佐光恵子 他

「Healthcare rupport by a *Yogo* teater at a school for special needs education who experienced the Great East Japan Earthquake」

(東日本大震災を経験した特別支学校に勤務する養護教諭の健康支援活動)

HEDN(Health Emergency and Disaster Nursing), 査読有り, 1巻, 66-73, 2017

③ 鹿間久美子、青柳千春、佐光恵子 他

「自然災害における養護教諭の役割 ～子どもへの対応に着目して～」

京都女子大学生生活福祉科, 査読有り, 第14号, 41-49, 2019

④ 青柳千春、金泉志保美、黒岩初美、鹿間久美子、佐光恵子 他

「Mental and physical effects of the 2011 Great East Japan Earthquake on School Children, and Health Support initiatives by *Yogo* Teachers : Findings from a survey of high school *yogo* teachers 5 years after the disaster」

(東日本大震災が児童生徒にもたらした心身の健康への影響と養護教諭の健康支援～震災から5年後、高校に勤務する養護教諭を対象としたアンケート調査から～)

群馬大学教育学部紀要, 査読有り, 68巻, 37-46, 2019

[学会発表](計 4 件)

① 日本学校保健学会第62回学術大会(岡山) 2015年

内藤美穂、佐光恵子、青柳千春、鹿間久美子 他

「東日本大震災時に児童生徒とともに避難を余儀なくされた特別支援学校に勤務する養護教諭が行った健康支援活動の実態と課題」

②第62回日本小児保健学会(長崎) 2015年

佐光恵子、丸山幸恵、田村恭子、金泉志保美、青柳千春 他

「東日本大震災で被災した児童生徒の生命と健康を守る養護教諭の思い～災害を体験した養護教諭の語りから～」

③第63回日本学校保健学会(筑波) 2016年

伊丹菜、青柳千春、金泉志保美、鹿間久美子、佐光恵子

「東日本大震災時に養護教諭が行った児童生徒への健康支援の実態と課題～ナラティブ・アプローチを活用した事例から～」

④第77回日本公衆衛生学会(郡山) 2018年

佐光恵子、金泉志保美、青柳千春、鹿間久美子 他

「東日本大震災が児童生徒にもたらした心身の健康への影響と養護教諭の健康支援活動」

〔図書〕(計 1 件 報告書 小冊子 1 冊)

報告書 科学研究費助成事業基盤研究 C(2015-2018 年)

【研究課題 東日本大震災で被災した児童生徒に対して養護教諭が行なう健康支援活動と課題】全 111 頁, 2020

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

①研究分担者氏名: 鹿間久美子

ローマ字氏名: Shikama Kumiko

所属研究機関名: 京都女子大学

部局名: 家政学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 40589727

②研究分担者氏名: 金泉 志保美

ローマ字氏名：Kanaizumi Shiomi

所属研究機関名：群馬大学

部局名：保健学研究科

職名：准教授

研究者番号（8桁）：60398526

◎研究分担者氏名：青柳千春

ローマ字氏名：Aoyagi Chiharu

所属研究機関名：高崎健康福祉大学

部局名：保健医療学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：10710379

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。